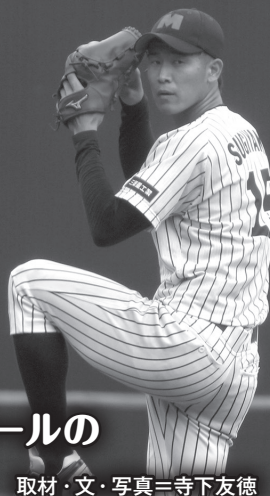


# 底知れぬ男 杉山一樹 (三菱重工広島)の 進化を探る



## 杉山一樹 (すぎやま・かずき)

193センチ92キロ／右投右打。1997(平成9)年12月7日生まれ、静岡県静岡市出身。静岡市立千代田東小3年時、漫画『MAJOR』に影響され、静岡中央リトルで主に投手として野球を始め、静岡市立東中では外野手。駿河総合高で投手に戻ると、3年春に自己最速を10キロ塗り替える最速145キロをマーク。三菱重工広島3年目の今年、JR西日本の捕強選手として都市対抗に出場。153キロを叩き出した。

## 独創的でビックスケールの逸材は何を思う

取材・文・写真=寺下友徳

2017年、世間があっと驚くヤクルト2位指名を受け、今季ルーキーイヤーでプロ初勝利の太田佑馬を生み出した三菱重工広島。実は今年も「隠し玉」が日々爪を研いでいる。静岡・駿河総合高卒3年目の杉山一樹がその男。主戦となったのは今季からだ、193センチから投げ下す最速153キロストレートでNPB複数球団から熱視線を浴びている。杉山のここまでの道のりと進化は何か? 本人と周囲の証言から紐解いてみた。

### 「高評価」の理由とは?

8月25日、JABA広島大会予選リーグ2日目が行われたJR西日本総合グラウンドには熱があつた。陣取つたのはNPBほぼ全球団の20人以上のスカウト。なかにはドラフト会議中継で拝見する編成部長レベルの方々も見受けられる。その視線をマウンド上に引く張つてみると…。縦じまにスリィダイヤを胸につけたひときわ大きな人間山脈に突き当たつた。

この日、四国銀行と対戦した三菱重工広島の先発は駿河総合高卒3年目の杉山一樹。今季、主戦格へ急成長し、JR西日本捕強選手で参加した都市対抗・準々決勝のJR東日本戦では4番手として初球から自己最速153キロを記録。社会人2大会のデビュー戦で1回1/3無失点以上のインパクトを与えた193センチ右腕だ。

しかし結果は…。5回83球、8被安打、5失点。5奪三振の一方、暴投3の3四死球で145キロどまり。「まったくダメでした」と当人も反省しきりの内容だった。ただ、スカウト陣の杉山評はそ

### ◀ フォームに関する証言 ▶

連続写真のフォームはよくないです。本来、僕は股関節にはめる感覚で、右脚一本で立ててから、バスケットボールを突く感覚で腕をトップの位置に持っていく、その時に左脚がつきます。でも、この写真ではトップに入っている時に左脚が接地していない。それから体重移動に右腕がついていく形で0から一気に10に持っていくんですが、腕を振ろうとしすぎています(本人談)。

